

メチル水銀が生成

水俣病裁判 西田証人が認める

熊本地裁民事三部会藤次郎裁判長係りで進められている水俣病裁判の第十八回口頭弁論は、前日に引き続き十一日午前九時水俣工場長の西田栄一氏(六〇)の原告側証人尋問が行なわれた。【一部既報】

五月以降チツソの企業体質を重点に立証を進めている原告側は、この日はチツソのような化学工場では、あらかじめ予測しないような物質が副成される点をとりあげ、無水酢酸生成過程で塩化ヒニールがでたり、塩ヒ生成工程で

ステンレス製の生成器をたまたま鉄にかえたところ、器の中に硫酸鉄が微量でできたために、生成時間が五分の一になった例をあげて、西田証人を尋問。

西田氏も「化学工場では予想しないような変化が起こりうる。そのひとつの例として、アセトアルデヒド生成過程で、水俣病の原因物質であるメチル水銀化合物が生成された」ことを認めた。原告弁護団はこの証言を足がかりに、七月の尋問では不測の事態が起こることを知りながら、危険防止のための排水調査や研究を怠った点を追及する方針。

次回七月十五、十六日、原告はさらに二回とも西田氏を尋問する予定で、西田氏の証人尋問は十二回、時間にして五十時間を越えることになる。民事裁判で一人の証人が、これほどの尋問を受けるのは、きわめて異例のことという。

なお、この日の法廷には、水俣病取材のため来朝中の国際的ジャーナリスト、ウィルフレッド・G・バーチエツト氏も姿を見せ、記者席でメモを取っていた。

次回七月十五、十六日、原告はさらに二回とも西田氏を尋問する予定で、西田氏の証人尋問は十二回、時間にして五十時間を越えることになる。民事裁判で一人の証人が、これほどの尋問を受けるのは、きわめて異例のことという。

なお、この日の法廷には、水俣病取材のため来朝中の国際的ジャーナリスト、ウィルフレッド・G・バーチエツト氏も姿を見せ、記者席でメモを取っていた。